

令和5年3月7日

世田谷区立上北沢小学校

校長 三浦 健仁 様

学校関係者評価委員会

委員長 篠原 陽子

周防 泰臣 松田 麻美

松田 洋子 三浦 美里

令和5年度 学校関係者評価委員会の報告

上北沢小学校学校関係者評価委員会では、5・6年生児童、全校保護者地域関係者によるアンケート結果及び、教職員自己評価をもとに、本年度も評価をまとめましたのでご報告いたします。

日常生活や行事など様々なことがコロナ禍前の状況に戻ってきた昨今、様々なところで子ども達の元気な様子が見られるようになり嬉しい限りです。一方で世の中の動きや人々の心の在り様は今までと少し違ってきているように感じます。リモート授業やWEBの活用など実際に顔を突き合わせない機会が増え、人付き合いの煩わしさは軽減された一方、他者との距離感やコミュニケーション能力の希薄さが心配なところです。

今回からアンケートの回答もWEBを利用できるようになりました。その気軽さゆえなのか、回収率の低下が著しい結果となってしまいました。私ども学校関係者評価委員はもちろん学校行事や学校公開等に出向き日々の学校生活を通じて学校運営が正しく適切に行われているかを評価していますが、アンケートの結果も大切な評価基準となっております。回収率の低さはその元が少ないことを示しています。「学校運営に満足している」という表れだとの判断もできますが、適切な評価をより正しく行えますよう保護者の皆様には積極的に回答していただくようお願いいたします。

教職員自己評価では学校運営の中身についてより詳細が見て取れます。いずれも教育環境がよりよくなる為の要望や意見の表れではあるが、中には他者への要求や自己主張が強いものも見受けられます。こうしたストレートな意見を出しやすい環境作りがされている利点ともいえるが、現状に至るまでの背景や思惑まで考えが至らない場合も見受けられるので、少しの思いやりと想像力を持つとともに自己評価に至るまでに各セクション意見交換する事も必要ではないかと考えます。

多少課題を抱えている学年・クラスもあるようですが、教職員全体で解決に向けて対処していただくとともに、保護者のご理解とご協力は、もちろん不可欠です。相互理解一層深め、対応に当たることが、解決への道に繋がると考えます。とはいえ、校内全体の雰囲気はとても落ち着いている様子です。学校長の評価は高く、児童からの信頼も厚いようで安心しました。通年問題となっていた「あいさつ」についても向上されていて、今回「あいさつ運動」に有志を募った結果、最初は少なかったが賛同した児童が徐々に増え、広がりを見せているそうです。この事例のみならず授業や行事でも子ども達の自主性が育っている事柄が多くなっている様子です。こうした過程での成功体験が自己肯定感に大きく影響するので、児童にはより多くの経験をしてほしいと願っています。

先生方は「働き方改革」の影響で時間が限られている中、より質の良い教育を提供するために日々「見直し→精査→工夫→改善」の繰り返しをされています。学校に関わるすべての人が少しの思いやりと想像力を持って過ごしていくことで、上北沢小学校がもっと素晴らしくなると私どもは期待しています。

以上